

# HUD custom tools 仕様書

---

2022.08.29

著作権・使用許諾について

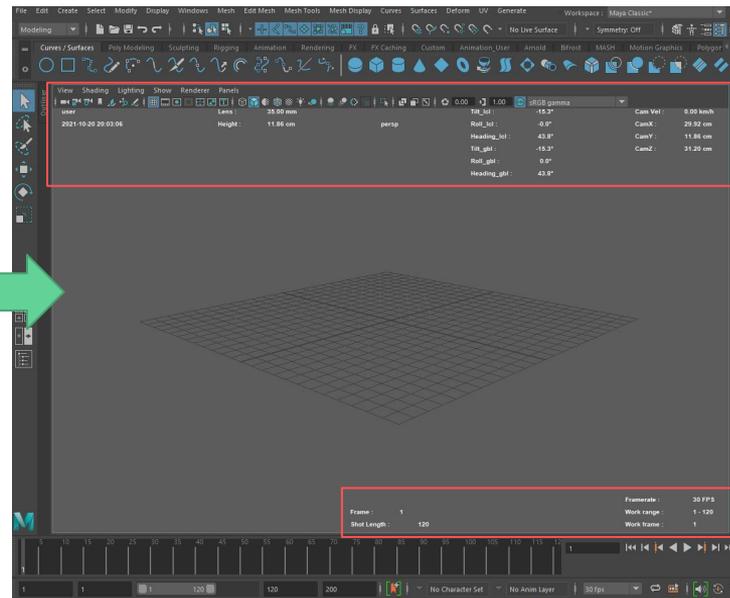
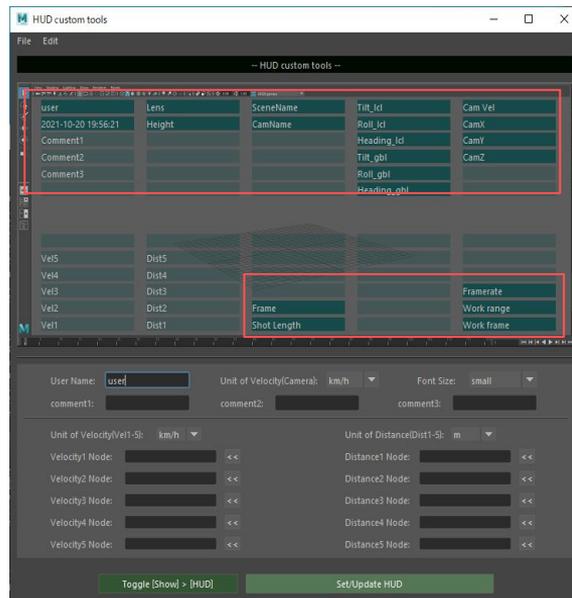
HUD custom tools は Apache License Version 2.0 に基づいてライセンスされます。

リブレント・イノベーションズ株式会社 BACKBONE事業部 監修/株式会社BIGFOOT

# ツール概要

本ツールは、以下の情報をHUD(Heads Up Display)として任意の位置に表示するツールです。

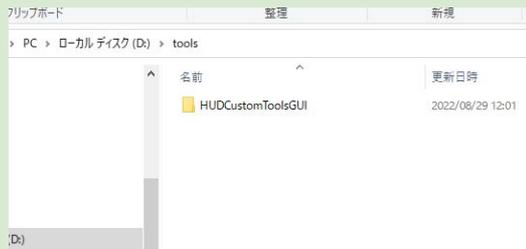
- ・ユーザー名
- ・現在の日時
- ・Comment : 任意のコメント
- ・Lens : カメラのfocal length
- ・Height : カメラのY座標
- ・Scene Name : シーン名
- ・Cam Name : カメラ名
- ・Tilt\_lcl : カメラのローカルX回転
- ・Tilt\_glb : カメラのローカルY回転
- ・Heading\_lcl : カメラのローカルZ回転
- ・Heading\_glb : カメラのグローバルX回転
- ・Roll\_lcl : カメラのグローバルY回転
- ・Roll\_glb : カメラのグローバルZ回転
- ・Cam Vel : カメラの速さ
- ・Cam X,Y,Z : カメラの座標
- ・Distance : 任意ノードとカメラの距離
- ・Velocity : 任意ノードと速さ
- ・Shot Length : playback rangeの長さ
- ・Frame : 現在のフレーム
- ・Framerate : フレームレート
- ・Work frame : 現在のフレーム
- ・Work range : playback range



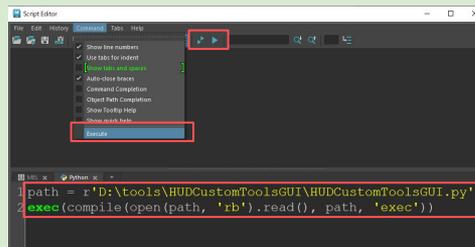
## ■ 起動方法

“HUDCustomToolsGUI”ディレクトリを任意の場所に格納し、  
“HUDCustomToolsGUI”ディレクトリ直下の“HUDCustomToolsGUI.py”を、Pythonコマンドexec()で実行します。

### 具体例



- ① HUDCustomToolsGUIを任意のディレクトリに格納する  
例:**D:\tools**に格納した場合



- ② Script EditorのPythonタブに、同梱のrun.py のコマンドを入力する

```
path = r'D:\tools\HUDCustomToolsGUI\HUDCustomToolsGUI.py'  
exec(compile(open(path, 'rb').read(), path, 'exec'))
```

※①で格納したディレクトリに合わせたpathの変更が必要

- ③ [Command] > Execute  
または  

### 動作確認環境

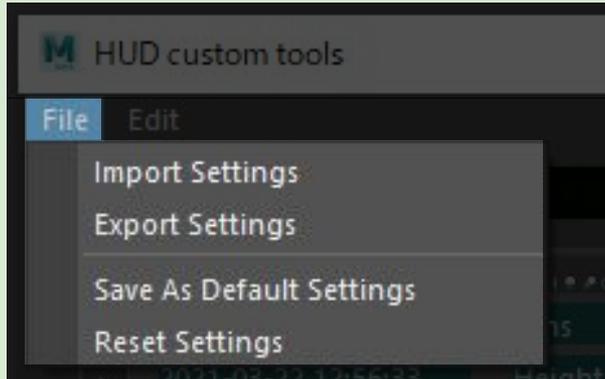
- Python 2.7, 3.9
- Maya 2017, 2018, 2019, 2020, 2022, 2023

本ツールは、Maya 2017以降のバージョンに対応したshiboken2とPySide2をインポートしています。

本ツールをMaya 2017以降のバージョンで実行するにあたりインポートエラーが発生した場合は、モジュールのインストールをお願いします。



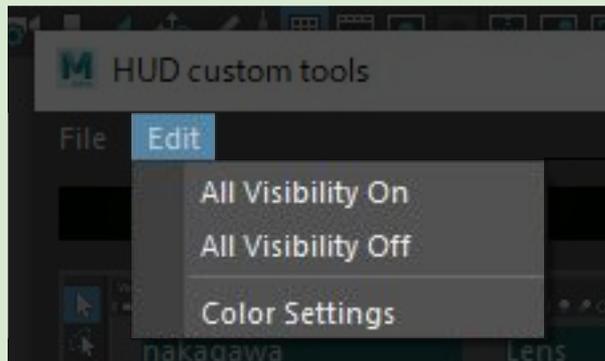
## ■ 設定手順(メニュー)



- **Import Settings** : 設定値をJSONファイル形式で入力します。
- **Export Settings** : 現在の設定値をJSONファイル形式で出力します。

---

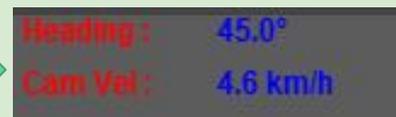
- **Save As Default Settings** : 現在の設定値をデフォルト設定として出力します。次回以降、この設定の状態ですべて起動します。他の環境にデフォルト設定を共有したい場合、本ツールと同じディレクトリに保存される”defaultSetting.json”を共有してください。
- **Reset Settings** : デフォルト設定を初期化します。



- **All Visibility On** : すべてのHUDを表示します。
- **All Visibility Off** : すべてのHUDを非表示にします。

---

- **Color Settings** : HUDの色を変更するスライダーを表示します。



以上